

委員会活動

常任委員会 特別委員会



木質バイオマス（林地残材）収集



議事堂で実施している公設民営塾

総務文教常任委員会

第1回（2月21日）

- ・財産の無償貸付について（旧活汲小学校校舎1階及び体育館）
- ・津別町第6次総合計画について
- ・市街地総合再生基本計画推進協議会設置条例の制定について
- ・固定資産評価審査委員会補欠委員の承認について
- ・公の施設に係る指定管理者の指定について（グレステナスキー場）
- ・スクールバス条例施行規則の一部改正について
- ・公設民営塾の実施について
- ・第7次津別町社会教育中期計画について
- ・校内通信ネットワーク整備（GIGAスクールネットワーク）の実施について
- ・令和2年度各会計予算原案の概要について

- ・地域公共交通活性化協議会設置条例の制定について
- ・町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について
- ・権利の放棄について（町営住宅使用料、水道使用料）
- ・農業委員会委員の選任について
- ・起業等振興促進条例の一部改正について
- ・公の施設に係る指定管理者の指定について（堆肥製造施設、21世紀の森キャンプ場、相生総合交流ターミナル）
- ・畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（施設整備事業）について
- ・農業水利施設危機管理対策事業について
- ・農業新規参入者誘致条例に基づく補助金の交付について
- ・木質バイオマス「地域内エコシステム」構築事業について（木質バイオマスセンター整備について）
- ・森林環境譲与税の運用について
- ・財産の処分について（大昭牧場）
- ・令和2年度各会計予算原案

産業福祉常任委員会

第1回（2月25日）

- ・国民健康保険税条例の一部改正について

議会運営委員会

第1回（2月28日）

- ・第1回津別町議会定例会の運営について
- ・意見書等の取り扱いについて

第2回（3月3日）

- ・第1回津別町議会定例会の運営について

第3回（3月6日）

- ・第1回津別町議会定例会の運営について

第4回（3月9日）

- ・第1回津別町議会定例会の運営について

複合庁舎建設等調査特別委員会

第26回（2月12日）

- ・複合庁舎建設等まちなか再生について

議会広報特別委員会

第15回（4月16日）

- ・議会報176号の編集について

町長行政報告

報告された事項

第1回定例会（3月3日）

- 寄附 ■網走川流域における流域対策等に関する取組ビジョン推進宣言・署名式典 ■令和元年度北海道知事感謝状の受賞 ■北海道立林業大学校誘致期成会の解散 ■令和元年度林野火災予防に関する標語、ポスターの知事賞の受賞 ■第15回エコツアーリズム大賞の受賞 ■新型コロナウイルスへの対応

第1回定例会（3月18日）

- 寄附 ■新型コロナウイルスの対応

議会を傍聴してみませんか

会議当日の受け付けで傍聴できます。気軽にお越しください。
※日程は、町のホームページで確認していただくか、議会事務局へお問い合わせください。

総務文教常任委員会道内行政視察報告

令和元年10月2日～4日 池田町、夕張市、京極町

○参加者

山内委員長・小林副委員長・篠原委員・高橋委員・鹿中委員

池田町給食センターについて 池田町

常時7千8百食の備蓄、受水槽に8千ℓ、自家発電も整備され災害時の安心拠点として非常に頼もしい施設であると感じた。

食育推進のため見学通路も整備され、平成28年には270人の方が見学に訪れ、食育授業として活用されており、町内で採れたものや加工品を積極的に提供、またバイキング給食等でさらに満足度を上げ、郷土愛を育む努力をされている給食であると感じた。



給食センター内部の様子

池田町は建設から40年経つ前に老朽化対策、高い衛生管理水準を確保するため早めの対策を行っている。

津別町学校給食センターは築41年を経過しており、全体

的に老朽化が著しいほか機能や衛生管理面で非常に厳しい現状がある。近い時期に対策計画の具体化が望まれる。

公設塾「夕張学舎キセキノ」について 夕張市

財政破綻しているので独自事業を行えないというハンデイヤップをもつとせず、クラウドファンディングで2千3百万円を集め、市の未来のために高校生に奇跡を託す事業であると感じた。



「夕張学舎キセキノ」入口

しかし、塾生の多様な進路に合わせた指導能力を持った講師の安定的な確保（協力隊員の任期後の保証はなし）、中長期的な運営を行うための財源の確保等が課題に挙げられていた。

北海道新聞に掲載されていた「東大狙う本気の公設塾」

について、応援したい気持ちから質問してみたが、9月議会では教育長の想いであり、市の方針ではないとの結論が出されたとの伺い、残念に思った。ハードルは高かろうが、夢に向かって進んでほしい。我が町も塾に愛称をつけ、実現が難しくとも大きな目標を立てるべきであると感じた。

京極町食育推進計画・京極町子どもの読書活動推進計画について 京極町

平成31年3月に保健事業の一環として策定され、さまざまな事業を実施されているが、平成20年に策定された健康づくり推進計画により、食育に関する関係機関それぞれで実施していたものを総合的に一つにまとめ、食育の推進を図られていた。



「湧学館」の外観

内容として、津別ですでに実施されている取り組みもあるが、学ぶべきところが数多くあり、特に、さまざまな体験を通して中長期的にバランスの良い食事を選択できる力を育むことは、町民の未来にとつて有益な財産になると感じる。



図書館内部の様子

生産者・家庭・地域・学校・行政が食育活動において、それぞれの役割を理解し、相互に連携や補完をするためには、京極町食育推進計画は大変参考になり、津別でも早急に整備すべきと感じた。

京極町の幼児から中学生の数は27人と人口に比べて多い（約7.5%）。

我が町も人口3千人になるのは遠くない未来である。京極町の食育や読書に対する取り組みを参考に子育てに力を入れ、活気を残したまちづくりが必要であると感じた。

産業福祉常任委員会道内行政視察報告

令和元年11月18日～20日 北竜町、北広島市、栗山町、鷹栖町

○参加者

村田委員長・渡邊副委員長・乃村委員・巴委員・佐藤委員・鹿中議長

公設型商業施設「ココワ」について
北竜町

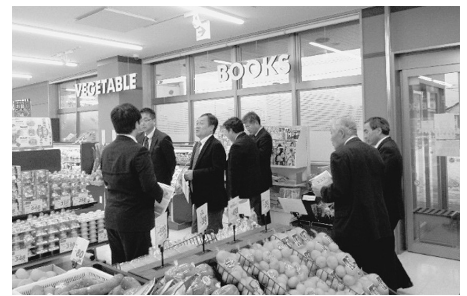
地域の核店舗の消滅という危機に瀕して、行政が商工会や民間の人達と協力し合って、知恵を絞り町民のニーズに答えたいと思う。

前の施設に比べ、売り上げもそんな色なく利益率も高いことから現在の経営はうまくい



「ココワ」の外観

っているようで、町外に目を向けていた方も時折利用し始めている現状もあったが、今後、管理費等の増加が見込まれ課題もあるようだ。
しかし、人口千八百人ほどの町がこれだけの対策を打ち住民を守ろうとしていることにエールを送りたい。



「ココワ」内部の様子

ホクレン食と農のふれあいファーム「くるるの杜」について
北広島市

直売所内部と他の外観を見学したただけであったが、規模は違っても津別町でも農業に触れ合える仕組みづくりが必要ではと感じた。



「くるるの杜」の外観

空き店舗活用支援事業について
栗山町

空き地空き家対策については、決して大きな支援とは言えず、実績数も栗山町の人口や事業者数の規模からみても多いとは言えない。



栗山町庁舎の外観

商店街コミュニティ事業として、観光・インフォメーションを目的にまちの駅「栗夢プラザ」を開設していた。アンテナショップとしては機能していたが、自立運営は商店街が活性化し、一部経費を負担できるようにならなければ難しいと感じた。将来行政からの助成に頼らざるを得なくなるのではとの懸念も感じた。

引きこもり者の支援について
鷹栖町

大変積極的に取り組んでいるという感じがした。しかし現在は国からの助成に頼っている財源が心配である。助成期間終了後は、どこかに稼げる部分を見つけ出す必要があると感じた。また、個々の事業の区分けがはっきりしていないように思えた。全体の事業の分掌をはっきりさせ、各パートの責任者の担い手の養成の必要性を感じた。今のままでは地域コーディネーターが倒れると機能しなくなる気がした。



鷹栖町議会との意見交換

議会日誌

2月

- 12日 第27回複合庁舎建設等調査特別委員会
- 13日 北海道町村議会議長会正副会長会議・公務災害補償等組合議会定例会・理事会（札幌市）
- 20日 オホーツク管内町村議会議長会定期総会（北見市）
- 21日 第1回総務文教常任委員会
- 25日 第1回産業福祉常任委員会
- 28日 第1回議会運営委員会

3月

- 3～18日 第1回津別町議会定例会
- 3日 第2回議会運営委員会
- 6日 第3回議会運営委員会
- 9日 第4回議会運営委員会

4月

- 16日 第15回議会広報特別委員会

決議を採択

■「民族共生の未来を切り開く」決議

【要旨】

アイヌ文化の復興・発展の拠点としてウポポイ（民族共生象徴空間）が北海道白老町ポロト湖畔に、4月24日誕生する。

先住民族アイヌを主題とした日本初の「国立アイヌ民族博物館」と「国立民族共生公園」等からなるこの施設は、国では年間来場者100万人の目標を掲げ、道内においては官民一体となって誘客活動に取り組んでおり、道内各地のアイヌ文化振興の取り組みや食・観光等の地域の多様な魅力とつなげることにより、国内外への総合的な情報発信の強化となり、国民理解の促進が大きく期待される。

また、北海道を訪れる観光客のさらなる増加は、新たな産業の創出・既存産業の活性化など相乗効果も期待される場所である。

よって、津別町議会は、ウポポイ開設を機に、アイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現が図られ、北海道が魅力ある大地であり続けるため、津別町民の協力を得て「民族共生の未来を切り開く」決意をここに表明する。

以上、決議する。

北海道津別町議会

津別町役場庁舎等建設に係る 議場及び各会議室の有効利用 に関する要望書の提出

令和2年第1回津別町定例会における渡邊議員の「公設民営塾について」の一般質問に対する宮管教育長の答弁において、新庁舎の議場については、セキユリテイの関係から公設民営塾の会場として利用することはできない旨の説明があったところですが、新庁舎の議場については、この間の議員協議会の協議においても、複合庁舎建設等調査特別委員会での協議においても、多目的な利用を可能とするためにフラット化とし、議員及び理事者の机、椅子及び傍聴席さらに、音響設備についても移動可能なものとすることで実施設計が進められていたものと認識しているところであります。

新庁舎の勤務時間外における利用は、議場の対応のみならず、検診ホールや他の会議室についても、集会や各種会議等において不特定多数の方が、従来の林業研修会館の各会議室や町民懇談室が利用できたような利便性を第一に考え、その上でセキユリテイが確保される対応を講じられるよう要望致します。

ま ぐ り は

連日新型コロナウイルスについて報道されている。3月11日にはWHOがパンデミック（感染症の世界的な大流行）とみなすことができる」と表明し、各国への対策の強化を訴えた。世界各地で猛威を振るっているこのウイルスの恐ろしいところは、感染力が強く、免疫力の強い人にも感染し、無症状や症状の軽いままでほとんど広がり、免疫力の低下した高齢者、疾患のある方に感染したときに致死率が跳ね上がるということである。

私も、人と接することが多く、高齢の方ともお話しする機会が多いので、法要の中止、縮小等、慎重に対応している。しかし、あまりにも自粛が長引けばさまざまなことへの影響も大きくなる。各種業界の自粛により経済の破綻、子どもたちの運動不足や自粛によるストレス等々。

一人一人が正しい知識を持ってこの難局に立ち向かうべきである。とりあえず今、私たちにできることは、3密を避ける、咳エチケットと手洗いうがいの徹底である。

一日でも早い収束を願っている。
(小林)

歯 車